ISSEI
一誠商事
快適な住まい探しのお手伝い

つくば・土浦 茨城県南の地域紙
常陽新聞
月～土曜発行 第688号 http://joyonews.jp

2016年（平成28年） 4月23日（土）
発行所：常陽新聞株式会社
〒305-0031 茨城県つくば市吾妻3-10-13
☎029-869-9800(代) FAX029-869-9836
月額購読料（宅配・電子版セット）2,080円（税込み2,246円）
本紙宅配1,500円（税込み1,620円）電子版980円（税込み1,058円）
購読申し込み 0120-104-298 1部税込み100円

きょうの天気

最高	最低
24度	12度

「つくばね学」で地域知って

県立筑波高校

座学や実習 独自授業

つくば市北条の県立筑波高校（小野寺広校長）で今年度から、地域を学んだり体験実習したりする独自授業「つくばね学」が2年生105人を対象に始まった。座学や試験などを経て、9月から地域に実習に出向く予定。22日は、つくばの観光物産や市の概要について講師を招いた授業が行われた。

つくばの観光物産や仕事について講師の大山寛会長から話を聞く生徒ら＝つくば市北条の筑波高校

講師を務めた同校近くの観光物産卸会社オーヤマの大山寛会長（79）は、つくば土産を紹介した後、高校卒業後の商売の経歴や観光物産の仕事のきっかけなどを振り返った。商売での信用や前向きな考え方の大事さなども述べた。

市の概要については、市企画・国際課の担当者が授業を行った。つくばの特徴である筑波研究学園都市の成り立ちやロボット実験、今後の人口減を見据えた取り組みなどを紹介した。生徒はメモを取りながら二つの講義に聞き入った。

授業後に2年の岡野柾さん（16）は「高校卒業したらどういうことをしたいか決まっているわけではないが、大山さんの話を聞いて、仕事の大変さや生きがいを知ることができたのでよかった」と感想を話した。

地域の特色や人材を生かした「つくばね学」は金曜午後に設定している。今回はマナー講座に続いて2回目の座学。歴史・文化や福祉に関する座学や試験を経て、9月以降半年から1年間、生徒の希望や適性に応じて24の体験実習が行われる。

実習先は近隣の小学校や幼稚園・保育所、福祉施設、農業生産法人、薬局、筑波大防災関連プロジェクト、NPOなどを予定する。筑波山名物ガマの油売り口上も学校で学ぶ。

（橋本ひとみ）

【おことわり】本紙は日曜休刊のため、24日付を休みます。次号は25日付となります。

土浦市

レンコン食害対策方針

鳥獣被害3割減へ計画

土浦、かすみがうら両市はこのほど、2016～18年度まで3年間の農作物鳥獣被害防止計画を策定した。霞ケ浦湖岸を中心にカルガモによるレンコンの食害が発生し、特に4～5月は新芽の食害がその後の生育に重大な影響を及ぼしているなどとして、従来の防鳥ネットによる対策のほか、カルガモ飛来の誘因となるレンコン採取時の未収穫部位の撤去を図るなどの方針を示している。

3年ごとに策定している。計画によると土浦市の15年度のカルガモによるレンコンの被害額は約2220㌔、約1億5900万円、カラスやムクドリによるナシの被害額は約130㌔、約850万円、イノシシによる柿の被害は約180㌔、約380万円、同水稲被害額は約180㌔、約230万円だったとしている。

被害の軽減目標についてはいずれも3年間3割削減するとし、従来の防鳥ネット（カルガモなど）や電気柵（イノシシ）、銃やわなによる捕獲（イノシシ）に加えて、レンコン被害防止ではほかに、発芽期のついばみ被害はカルガモ以外の可能性もあるため、調査による対象鳥獣の特定と予防策を検討するなどとしている。

一方、湖岸のハス田に広がる防鳥ネットについては、カモ類などの水鳥が数多く飛来する冬に、ネットに引っかかり命を落とす野鳥が多いことから、自然保護団体などが防鳥ネットを正しく管理するよう求めている。

土浦市農林水産課は、野鳥がハス田に入らないよう、人が出入りする時以外はネットに隙間が生じないよう確実に閉じておくことを、県と市で農家に指導しているなどとしている。

（鈴木宏子）

霞ケ浦湖岸のハス田に張られた防鳥ネット＝土浦市内